



延岡市を流れる五ヶ瀬川水系の大瀬川で、産卵のために瀬に着くアユを狙う、瀬掛け漁がピークを迎えている。今月いっぱいがいシーズンで、三須町と天賞町の間には、五ヶ瀬川漁協と延岡五ヶ瀬川漁協が設置した瀬に、

アユの瀬掛け漁ピーク

11/22 大瀬川 西風が吹けば大物も

延岡

釣り人たちが川舟を浮かべて、長いさおを操りながらアユとの勝負をかけてカメラを構えて水面を見ている。夕方から日暮れにかけてカメラを構えて水糸の先でピチピチと跳ねる姿が何度も確認できた。今年のアユは豊漁で、県は来年の延岡湾

での海産稚アユ採捕停止の解除を発表したばかり。今年は瀬掛け漁で捕れるアユも多く、資源回復の兆しが見える。その一方で型としては小さい物がほとんど。フライや南蛮、甘露煮などには向いていないが、塩焼きなどには物足りないという。

釣り人の一人は「北方町付近には大きいサイズのものもいる。これから天気が崩れて、西風が吹けば下ってくる可能性もあるのだが」と話していた。

大瀬川のアユ瀬掛け漁 (20日午後、延岡市三須町側から撮影)

おもてなしの心得

袁社長

インバウンド念頭に講演

光主観
延岡協会が主催

香港の最大手旅行会社EGLツアーズ

香港から日本への旅行「EGLツアーズの袁文英社長が21日、延岡市で講演した。インバウンド客を持つ最大手の旅行会社」

受け入れを念頭に置いた「おもてなし」の心得と題し、流ちょうな日本語で同社の顧客サービスの方針や最近の旅行者ニーズなどを紹介した。主催は延岡観光協会。



講演するEGLツアーズの袁社長(21日、延岡市のエンシティホテル延岡)

EGLツアーズは1987年に日本旅行専門として創業。2011年に東日本大震災の際には「ピンチはチャンス」と捉え、どの旅行会社よりも早く訪日ツアーを再開し、復興に貢献した。全国38自治体から観光大使などの委嘱を受け、今年11月には叙勲を受けた。袁社長は乳幼児を連れ

て旅行する家族から「ベビーバスを用意してほしい」とリクエストを受け、事例を紹介した。日本のホテルに問い合わせても用意できないとの返事。しかし、EGLツアーズは家族に内緒でベビーバスを購入し、ホテルにチェックインした後に添乗員が客室に届けた。「サブライズで届けたんです。そのうれしさや喜びは想像できません。発時に話したり、出し方によって喜びが変わる。これが「おもてなし」なんです」

また、日本では無料のサービスも多いと指摘。温泉旅館で食し切り風呂が無料で利用できる例を挙げ「ただはダメ。お金を払うからこそ価値がある」と話した。香港からの訪日旅行者は20回目、30回目というのは当たり前。内容も個人化が進み、自らレンタカーを借りて運転する人や日本で挙式するウエディングツアーなどが増えているという。WiFiなどは当たり前。時代を追っていかないといけない。外国人旅行者の受け入れは言葉や文化が違つが、最初は慣れていなくても、頑張っ